

ストーリーの構成文化財一覧表（佐世保市）

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
3-1	旧佐世保無線電信所施設 (針尾送信所)	国重文	大正 11 年に建設された長波通信施設。佐世保で熟成された鉄筋コンクリート技術の到達点というべき建造物。	長崎県 佐世保市
3-2	佐世保市民文化ホール (旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館)	国登録	大正 12 年に第一次大戦の凱旋記念館として建てられた。旧海軍の催事が行われたほか、民間の利用も可能だった。戦後も長く市民に親しまれてきた。	長崎県 佐世保市
3-3	西九州倉庫(株)前畑 1 号 倉庫 (旧第五水雷庫)	未指定	鉄筋コンクリート技術の発達によって建築が可能となった超巨大建築物。一般人が間近で見学できる数少ないもののひとつ。佐世保最大の倉庫である。	長崎県 佐世保市
3-4	岡本水源地	未指定	日清戦争による水不足を受けて建設された。この完成により、市民も手桶単位ではあるが、浄水を利用できるようになった。	長崎県 佐世保市
3-5	山ノ田水源地	未指定	鎮守府と佐世保市の水不足の解消と衛生環境の改善のため明治 41 年に建設された。この完成により、市民も水道管による安全な給水を受けることができるようになった。全国で 10 番目の水道管給水の実現であった。	長崎県 佐世保市
3-6	立神係船地 (旧修理艦船繫留場)	未指定	コンクリート技術の発達により常に海水に触れる場所に大々的にコンクリートを使用した最初の例。佐世保港の地形を大きく変える海軍最大規模の土木工事だった。	長崎県 佐世保市
3-7	佐世保重工業(株) 250 トンクレーン	国登録	イギリスから輸入されたジャイアント・カンチレバー・クレーン。世界最大級の揚重能力を誇った。海軍工廠の主力クレーンとして活躍した。佐世保のランドマークの一つ。	長崎県 佐世保市
3-8	佐世保重工業(株) 第 5、第 6 ドック	未指定	第 5 ドック (旧第一船渠) における火山灰を混入した対海水コンクリートの開発と、第 6 ドック (旧第三船渠) における鉄筋コンクリートの建物への応用など、コンクリート技術の熟成期に重要な役割を果たした。	長崎県 佐世保市

3-9	赤崎貯油所旧地下重油槽	未指定	耐海水コンクリートの開発に携わった真島健三郎はそれを建築物に応用し、次いで岸壁そして重油タンクにもこれを適用し、水よりも浸透性の高い重油を貯蔵できることを示し、コンクリートの将来性をさらに高めた。	長崎県 佐世保市
3-10	庵崎貯油所地下重油槽	未指定	艦船の燃料は重油が主体となり、各地に地下式の重油タンクが建設されていたが、これは佐世保においての成功が他地域に波及したものである。その佐世保ではさらに大規模なタンクが建造され、7万トンという世界最大の重油タンクが建造された。	長崎県 佐世保市
3-11	佐世保要塞及び関連施設	未指定	軍港防備のため市内5ヶ所に陸軍砲台が建設された。市街地を取り巻くように建設され、俵ヶ浦町の丸出山砲台のように観測所が残る例もあり、現在ではトレイル事業に活用されている。	長崎県 佐世保市
3-12	平瀬煉瓦倉庫群	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。平瀬地区には食糧品や衣類が保管された。米軍基地内にあり通常は間近では見学できない。佐世保を象徴する景観の一つである。	長崎県 佐世保市
3-13	立神煉瓦倉庫群	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。立神地区には兵器類が保管された。煉瓦造から鉄骨煉瓦造へと移行する技術の発展過程を見ることができる。	長崎県 佐世保市
3-14	前畑火薬庫	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。前畑地区には火薬類が保管された。終戦直前まで拡張が繰り返され、時代ごとに特徴的な建物が残り、まさに建築博物館といえる。	長崎県 佐世保市
3-15	南風崎トンネル	未指定	トンネル正面の石造柱は意匠上設置されたもの。この時期の建造物は近代化の目に見える象徴として、実用性だけでなく意匠面も重視されている。	長崎県 佐世保市

3-16	清水の瀬橋梁	未指定	鉄道橋としては一般的な形式だが、煉瓦造橋脚の石材がアクセントになっている。橋脚の上の鈹桁(プレートガーダ)の更新を繰り返しながら今も現役で稼働している。	長崎県 佐世保市
3-17	佐世保鎮守府水道施設群	未指定	小規模ながら全国3番目の近代水道施設として完成し、時局の要求に合わせて拡張が繰り返された。水道施設の発展過程を見ることができる施設群といえる。	長崎県 佐世保市
3-18	佐世保市水道局水道施設群	未指定	海軍からの浄水分与でスタートした佐世保市の水道事業は、急激な人口増加に対応するために拡張を繰り返した。	長崎県 佐世保市
3-19	干尽倉庫群	未指定	艦隊への補給という鎮守府の役割を象徴する倉庫群。干尽地区には魚雷や爆弾本体が保管された。規模の大きな倉庫が多く、現在も港湾荷役を担っている。	長崎県 佐世保市
3-20	九州旅客鉄道(株)鉄道施設群	未指定	佐世保への陸上輸送路を確保する鉄道が整備され、明治31年に佐世保駅が開業した。当時の鉄道は近代化の目に見える象徴として意匠面にも配慮した造りとなっている。	長崎県 佐世保市
3-21	松浦鉄道(株)鉄道施設群	未指定	軍港佐世保と北部の炭田、商港伊万里への陸上輸送路を確保する目的、また佐世保港の軍商住み分けのために建設が推進された。佐世保の急激な市街化のため市街部は九州初の高架鉄道となった	長崎県 佐世保市
3-22	海軍防備隊、警備隊砲台群	未指定	軍港防衛のために建設された砲台群。航空機の登場やその著しい発展など技術の進展に合わせてその装備も移り変わっていった。	長崎県 佐世保市
3-23	佐世保重工業(株)佐世保造船所(旧佐世保海軍工廠)施設群	未指定	数々の最新技術、設備が導入され、艦船の建造や改装を担った工場施設及び設備群。その設備と技術力は戦後も遺憾なく発揮され、地域の発展に貢献した。海沿いに林立するクレーン群は佐世保を代表する景観の一つ。	長崎県 佐世保市

3-24	佐世保鎮守府庁、海兵団 関連施設群	未指定	佐世保鎮守府の中樞を担った施設群。現在も海上自衛隊の中心施設となっている。鎮守府時代の門柱や通信隊庁舎、兵舎や火薬庫、巨大な地下壕、並木道が残る。	長崎県 佐世保市
3-25	佐世保鎮守府関連記念碑 群	未指定	佐世保鎮守府の建設から終戦までの間、鎮守府のまちならではの記念碑や慰霊碑が建立された。これらの石碑群もまた、鎮守府が歩んだ歴史を証明するものである。	長崎県 佐世保市
3-26	東山公園（旧海軍墓地）	未指定	鎮守府開庁からほどなく、「海軍埋葬地」として整備された。終戦までに亡くなった17万6千柱あまりの戦没者が祀られ、毎年市主催の慰霊祭が行われている。また海上自衛隊隊員による奉仕清掃等も頻繁に行われている。	長崎県 佐世保市
3-27	吉村長策関連史料群	未指定	我が国水道の父とも称される海軍技師吉村長策に関する史料群。岡本水源地の設計図面や工事写真、山ノ田水源地の計画図や工事写真、舞鶴鎮守府水道の図面の一部等が含まれている。	長崎県 佐世保市